

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第13, 16集

林田シタノヂ遺跡 I・III

農村基盤総合整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

2004.3

土佐山田町教育委員会

林田シタノヂ遺跡Ⅰ・Ⅲ

農村基盤総合整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

2004.3

土佐山田町教育委員会



序

本町には旧石器時代から近代に至るまで数多くの文化遺産があります。これらの文化遺産を調査、研究することにより現在、この時を生きていく我々にとつて当時の様々な社会的事象から、現代社会の諸問題の克服にとって参考となるべく示唆を我々に与えてくれます。

今回報告書として刊行されます林田シタノチ遺跡は農業基盤整備に伴い発掘調査を行いました。本遺跡は縄文時代後期から室町時代にかけての複合遺跡ですが、物部川流域における数少ない縄文時代の遺跡として確認することができました。本調査により物部川流域における縄文時代の様相と稻作による弥生時代の成立など今後の研究に資することになれば幸いです。

最後に本遺跡の調査に伴いご協力いただきました地元の林田地区を始め高知県教育委員会、高知県埋蔵文化財センターの方々には心より御礼申しあげます。

平成16年3月

土佐山田町教育委員会
教育長 原 初恵

例　　言

1. 本書は、土佐山田町林田・小田島地区における農村基盤総合整備事業に伴う林田シタノヂ遺跡の発掘調査報告書である。
2. 林田シタノヂ遺跡の所在地は、高知県香美郡土佐山田町林田字シタノヂである。
3. 発掘調査は、平成4年3月2日～3月24日、平成4年9月17日～11月9日に実施した。調査面積は2,546m²である。
4. 発掘調査は、高知県教育委員会の指導のもと土佐山田町教育委員会が主体となり実施した。調査及び整理作業は、平成3年度分については中山泰弘（土佐山田町建設部計課主幹）が担当した。平成4年度分については調査Ⅰ・Ⅱ区を山崎正明（高知県立埋蔵文化財センター調査員（現高知県立小津高等学校教諭））が、調査Ⅲ区を門脇隆（高知県立埋蔵文化財センター主任調査員（現高知県立岡豊高等学校教諭））と中山泰弘がそれぞれ担当した。
5. 本書の執筆・編集等は中山が行った。なお、平成4年度分Ⅰ・Ⅱ区に関しては平成5年度に『林田シタノヂ遺跡Ⅱ』として山崎正明が報告している。
6. 遺構についてはP（ピット状遺構）SK（土坑状遺構）SD（溝状遺構）SX（性格不明遺構）で表示した。
7. 報告書作成にあたっては門脇隆氏、山崎正明氏、高知県教育委員会文化財課、（財）高知県文化財団埋蔵文化財センターの各調査員の方々からご協力、ご教示をいただいた。記して感謝の意を表したい。
8. 発掘調査にあたっては土佐山田町林田・小田島土地改良区、地元林田地区の方々にご協力、ご支援を頂いた。関係各位に厚くお礼申し上げます。
9. 発掘調査及び整理作業には下記の方々にご協力いただいた。
発掘作業員
佐々木龍男・小松一仁・池 宣宏・竹村幸宏・吉川徳子・中沢英子・岩瀬好子・山下厚子・山崎政子・武内 環・藤村清子・井上静衛・門田安代・山中美代子・宮本幸子
整理作業員
松木富子・山中美代子・宮本幸子・井上博忠・白木由里・門田美和子・竹村延子・矢野 雅・宮地佐枝・川村亜矢・伊藤 仁・竹崎寛将・高橋加奈・宗石祥一
10. 当遺跡出土資料は、土佐山田町教育委員会が保管している。
11. 遺跡の略号は92-20YGである。

本文目次

第Ⅰ章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境	
1. 地理的環境.....	1
2. 歴史的環境.....	3
第Ⅱ章 調査の方法.....	8
第Ⅲ章 遺構と遺物.....	12
第Ⅳ章 総括.....	16

挿図目次

図1 高知県の市町村と土佐山田町の位置.....	2
図2 林田シタノヂ遺跡と周辺の遺跡.....	6
図3 林田シタノヂ遺跡周辺小字図.....	9
図4 発掘調査区、試掘トレーニング位置図.....	10
図5 発掘調査区位置図.....	11
図6 SK1、2 実測図.....	12
図7 SX1、SD1 実測図.....	13
図8 SX1パンクセクション図.....	13
図9 出土遺物実測図.....	14
図10 出土遺物実測図.....	15

表 目 次

表1 周辺の遺跡分布表.....	7
表2 遺物観察表.....	15

写真目次

巻頭カラー

PL1 調査風景.....	5
PL2 林田シタノヂ遺跡	
PL3 第1調査区	
PL4 第1調査区、試掘確認調査	
PL5 第3調査区	
PL6 第3調査区	
PL7 出土遺物（弥生土器）	
PL8 出土遺物（弥生土器）	
PL9 出土遺物（縄文土器）	
PL10 出土遺物（陶磁器・須恵器）	

第1章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

土佐山田町は高知県の中央東寄りに位置し、県下第3位の川である物部川の中流域に位置する。物部川により形成された沖積平野に県下最大の穀倉地帯である高知平野の北端に位置し、物部川の洪積台地及び四国山地の一部を含む。

この物部川は、県北東部の香美郡物部村、剣山山系の白髮山（1,770m）の東斜面に源流を発し、高知平野東部の同郡吉川村で土佐湾に注ぐ。上・中流域は仏像構造線に沿って直線的に西南西流しており、流路に沿った上流へのルートは古来阿波國への最短距離として知られている。物部川に沿う山間部には河岸段丘が発達⁽¹⁾、土佐山田町で流路を南に変える。土佐山田町神母の木付近において平野部に流入し、肥沃な高知平野を縦断する。

高知平野東部を成す香長平野は不整形の扇状地で物部川両岸には鏡野⁽²⁾、山田野⁽³⁾と言われる古期扇状地の砂礫層から成る洪積台地を形成している。この台地は長岡台地と称される。長岡台地は、香長平野の北部を土佐山田町から南国市にまたがり、北東から南西に約5km連なる。洪積世中期以降に形成された比較的連続性に富んだ砂礫台地で隆起性扇状地である。

標高は扇頂部に近い土佐山田町付近では約50mに達し南西に緩やかに傾斜し、扇端部の南国市後免町付近では10m～15mである。台地面の北西側は国分川流域に扇状地性低地、南東側は物部川下流域の扇状地性低地に対して段丘面を持って接している。台地は河床から5m内外の標高を持ち、台地の間に新期扇状地が広がり、北端部は国分川の浸食により断崖を形成する。

洪積台地には旧石器時代の遺跡は発見されていないが物部川河岸段丘両岸の山麓部⁽⁴⁾、国分川水系である砥川の発生する山間部の山麓部⁽⁵⁾で確認されている。また縄文時代の遺跡もほぼ同じ位置に所在する⁽⁶⁾。新期扇状地から沖積平野にかけての大地には県下最大の遺跡群、田村遺跡群（縄文時代～近世）⁽⁷⁾を始め大篠遺跡（弥生時代）⁽⁸⁾が分布する。また、条里制地割の遺構が広く認められるが、旧物部川は洪水氾濫をたびたび繰り返しており条里制地割の乱れた地域も多く、旧流路も数本認められる。

土佐山田町の市街地が乗っている扇頂部分付近は周囲に比べて高位な面となり、南部に一段低い下位面があり、二段の段丘面となっている。中央部から末端部は低地性氾濫原に向かって緩やかに台地斜面が傾斜し、特に南西端は扇状地性低地の粗粒性冲積層に埋没しており湧水地帯となって小河川が流出し湿地帯を形成している。土壤は多湿黒ボク土壤であり、層の厚さは20cm～50cm以上で下層は灰色か灰褐色の場合が多い。台地面は自然の河流が無く江戸時代以前は開発が遅れていたが、江戸時代初期、土佐藩奉行野中兼山が物部川に山田堰を築き、灌漑水路を設けたことによって台地面にも導水が行なわれた。開発には、郷士が登用され、台地上には旧郷士屋敷が散在し、散村の景観を呈している。また、後免・土佐山田・野市の在郷町もこの時期に形成されたものである。

灌漑用水により、かつては米の二期作が盛んであり、現在も高知平野の水田地帯の一部であるが、乾田であるため、古来、葉タバコ・野菜の栽培も盛んである。近年はビニールハウスの施設園芸も増加してきている。町域面積の70%を森林地帯で占め、林業が盛んで良材を多く産出する。工業は、

地場産業の打刃物などがある。扇頂部の土佐山田町は物部川上流部と香長平野の接点に立地した谷口集落でもある。台地面はかつて開発の主体となった郷土屋敷の点在する散村形態がみられ、現在もその景観の名残がみられる。台地面の長軸（北東～南西方向）にはほぼ沿う方向でJR土讃本線及び国道195号線が直線的に通過している。東にある三宝山の中腹には国指定史跡及び天然記念物である龍河洞があり、県下でも有数の観光地となっている。

註

- (1) 『南国市史』上巻 南国市教育委員会 1979
- (2) 『野市町史』上巻 野市町教育委員会 1992
- (3) 『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会 1979
- (4) 佐野楠目山からは石核、剥片などが表面採集されている。
- (5) 新改西谷遺跡からはナイフ型石器が多量に出土している。
- (6) 新改開キ丸遺跡などがあげられる。
- (7) 『田村遺跡群 高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』第1分冊～第15分冊 1986
高知県教育委員会
- (8) 註1と同じ

参考文献

- 『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会 1979
『角川 日本地名大辞典 39高知県』角川書店 1986



図1 高知県の市町村と土佐山田町の位置

2. 歴史的環境

土佐山田町は、地理的に恵まれ県下最大の穀倉地帯である香長平野の一画に位置することから原始以来、豚々と人の営みを台地に刻みつけている。また、南に隣接する南国市とともに県下屈指の遺跡密集地帯である。

土佐山田町の歴史は、北部山麓部の西谷遺跡⁽¹⁾の調査により旧石器時代後期に始まる。二次堆積物ではあるがチャート製のナイフ型石器が多量に出土し、遺跡の立地など奥谷南遺跡⁽²⁾と非常によく似ている。続く縄文時代では、新改川の河岸段丘上に立地する間キ丸遺跡⁽³⁾より早期押型文土器が出土し、また新改川支流の砥川左岸の小山田遺跡⁽⁴⁾からは、晚期の土壙4基と突帯文土器が出土している。北部山間部に所在する飼古屋岩陰遺跡⁽⁵⁾からは早期押型文土器、厚手無文の葛島式土器、中期の船元II式土器、後期の彦崎K II式土器とともに多量のサヌカイト製の石鏃が出土している。また、東部物部川左岸の段丘上に林田シタノチ遺跡⁽⁶⁾が存在するが、ここではピット状造構から後期初頭の中津式土器が出土している。

弥生時代では前期に属する遺跡の確認には至っておらず、今のところ中期後半に位置づけられる龍河洞穴遺跡⁽⁷⁾が最古である。この遺跡は全山石灰岩でできた三宝山(322m)の中腹に開口した洞穴遺跡で、昭和8年に遺跡の部分が発見され、翌9年に天然記念物及び史跡として国指定を受けている。洞内の生活面は3室からなり、出土遺物は凹線文の発達した龍河洞式土器をはじめ、鉄鏃、石錘、有孔鹿角製品、貝輪、骨製管玉、珊瑚製勾玉等の装身具、貝類、獸骨類の自然遺物などである。また、龍河洞式土器に混在してただ一点、弥生時代後期末のヒビノキII式土器が出土している。龍河洞穴遺跡と同時期とみられる遺跡に、予岳遺跡⁽⁸⁾、雪ヶ峰遺跡⁽⁹⁾、影山遺跡⁽¹⁰⁾がある。中期後半に属する遺跡は多く、原遺跡⁽¹¹⁾、原南遺跡⁽¹²⁾からは堅穴住居跡とともに環濠と思われる溝や掘建柱建物跡等、集落を構成していた遺構も発見されている。その北部台地上には、弥生時代後半～古墳時代初頭の土器群が出土したひびのき遺跡⁽¹³⁾が存在する。これらの土器群はヒビノキI～ヒビノキIII式土器と命名され、高知県中央部以東の標準式土器とされていると共に、同遺跡がその時期に集落遺跡として栄えたことを示している。

弥生時代も後期となると遺跡数、規模の拡大がみられ、特に同遺跡に代表される後期後半に属する遺跡の急増が認められる。隣接するひびのきサウジ遺跡⁽¹⁴⁾では、弥生時代後期後半の堅穴住居跡が5棟検出されており、この内1棟は祭祀的意味を持つものと考えられている。また、物部川左岸には林田遺跡⁽¹⁵⁾が存在する。ここからは堅穴住居跡5棟が検出され、土器と共に多量の鉄鏃が出土している。

古墳時代には、小円墳・横穴式石室・群集といった特徴を持つ後期古墳が存在し、山麓部を中心として知られている。中でも、ひびのき遺跡に近い伏原大塚古墳⁽¹⁶⁾は、5世紀末から6世紀初頭に築造されたと考えられる。また、この古墳の周溝からは須恵器の円筒埴輪が出土している。この期の須恵器の窯跡は今のところ発見されていないが、当古墳の埴輪の存在を考えれば、出現期は少なくとも築造期と同時期まで遡ることは可能であろう。また、これらの遺跡を特徴づける遺跡として当町北部の新改地区とその周辺に所在する須江古窯群を挙げることができる。

奈良時代から平安時代にかけての須恵器、瓦焼成の窯跡が現在40数カ所確認されている。窯跡の

中には比江廃寺跡⁽¹⁸⁾の瓦を焼成したタンガン遺跡⁽¹⁹⁾や土佐国分寺の平瓦を焼成した東谷窯跡⁽²⁰⁾も存在し、また新改川左岸の河岸段丘に所在する須江上段遺跡⁽²¹⁾、須江北遺跡⁽²²⁾からは官衙的堀立柱建物跡や多量の須恵器、土師器が出土している。特に須恵器には湾曲した遺物が混在しており、須恵器生産に係わる遺跡と考えられる。なお、新改、須江地区はその西方2kmに土佐国府を控えていることから国府と密接な結びつきが想定される。

当町南部の沖積平野は高知県最大の平野、香長平野北端部にあたり、広く古代の条里製造槽⁽²³⁾を残している。また、「大領」・「田倉」・「宮毛田」等の地名があり、周辺からは古代の遺物が表面採集され古代香美郡の郡の推定地⁽²⁴⁾と考えられる。

中世では、土佐戦国七雄に数えられる山田氏⁽²⁵⁾が建久4年（1193）に土佐国へ入国以来勢力をのばし、楠木の山田城を本拠⁽²⁶⁾に領主制支配を行なうが、長宗我部氏により天文期頃攻撃を受けて滅亡する。

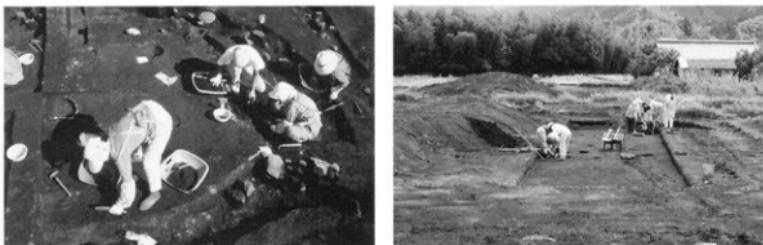
近世にはいり野中兼山⁽²⁷⁾による山田堰、上、中、舟入川の三用水の敷設等による長岡台地の開発により在郷町⁽²⁷⁾として香美郡北部の山間地域と南部の平野部との接点として物産集散地となり、高知城城下町の経済圏域として発展し、今日に至る。

註

- (1) 西谷遺跡『土佐山田史談』第25号「土佐山田町における考古学の成果と課題（VI）」2000
- (2) 『奥谷南遺跡Ⅰ』（財）高知県文化財埋蔵文化財センター 1999
- (3) 『開キ丸遺跡 新改中部地区圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 2002
- (4) 小山田遺跡 註1と同じ
- (5) 『剣古屋岩陰遺跡発掘調査報告書』日本道路公団・高知県教育委員会 1983
- (6) 『林田シタノデ遺跡Ⅱ 農村基盤総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 1993
- (7) 『龍河洞』高知県教育委員会 1959
- (8) 『土佐山田町史』P52 土佐山田町教育委員会 1979
- (9) 註8と同じ
- (10) 註8と同じ
- (11) 『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－原遺跡－』高知県教育委員会 1982
『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－原遺跡Ⅱ－』第25集 高知県教育委員会 1984
- (12) 『原南遺跡発掘調査報告書』高知県文化財团 1991
- (13) 『ひびのき遺跡』土佐山田町教育委員会 1977
- (14) 『ひびのきサウジ遺跡発掘調査報告書』（土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第8集）土佐山田町教育委員会 1990
- (15) 『林田遺跡発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 1985
- (16) 『伏原大塚古墳』（土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第14集）

土佐山田町教育委員会 1993

- (17) 註8と同じ
- (18) 『高知県文化財調査報告書第16集 高知県比江廃寺跡』高知県教育委員会 1970
『高知県文化財調査報告書第33集 比江廃寺跡発掘調査概報』高知県教育委員会 1991
- (19) 註8と同じ
- (20) 『新改東谷古窯跡群発掘調査』土佐山田町教育委員会 1978
- (21) 『土佐山田北部遺跡群－山田北部県営は場整備事業に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書－』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第12集)
- (22) 註21と同じ
- (23) 岡本健児「土佐神道考古学5」『土佐史談』第120号
- (24) 註8と同じP217
- (25) 註8と同じP248
- (26) 註8と同じP354
- (27) 註8と同じP363



PL 1 調査風景

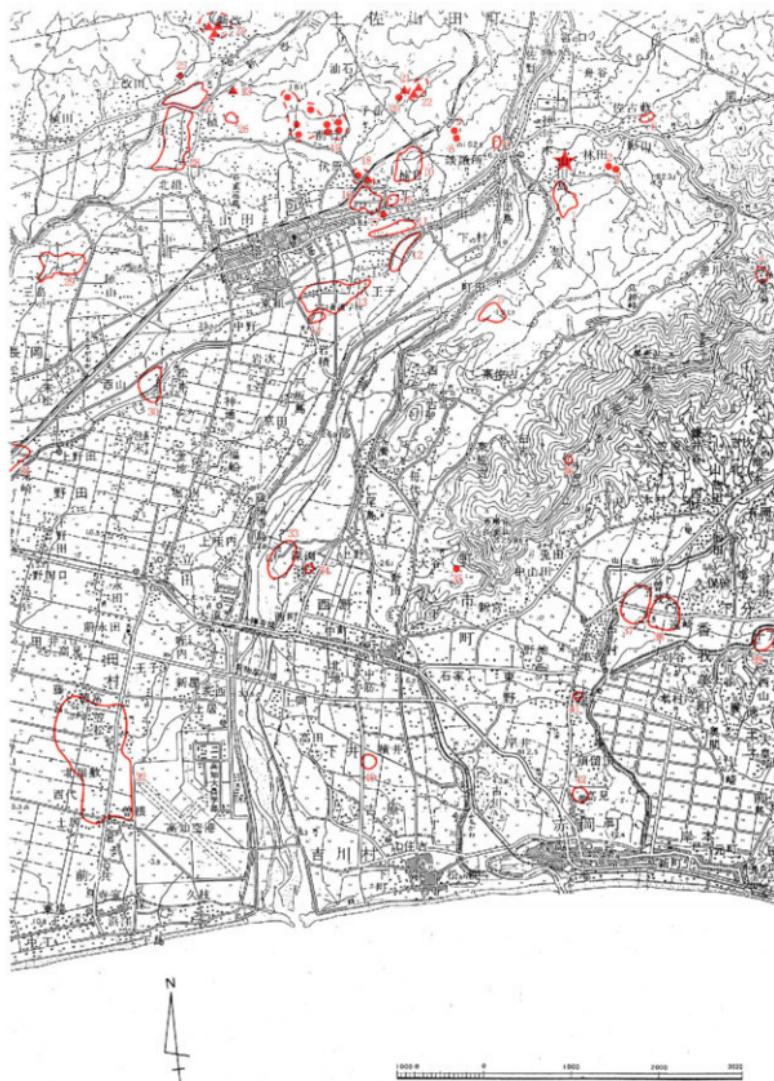


図2 林田シタノデ遺跡とその周辺の遺跡

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	林田遺跡	弥生～中世	22	長谷山窯跡	平安
2	林田1号墳	古墳	23	タンガン窯跡	飛鳥
3	林田2号墳	タ	24	林ノ谷窯跡	古墳～平安
4	龍河洞遺跡	弥生	25	新改古墳	古墳
5	鳥ヶ森城跡	中世	26	植村城跡	中世
6	影山城跡	タ	27	須江北遺跡	古墳～平安
7	雪ヶ峰城跡	タ	28	須江上段遺跡	古墳～近世
8	雪ヶ峰1号墳	古墳	29	三島遺跡	弥生～平安
9	雪ヶ峰2号墳	タ	30	金地遺跡	弥生・平安・中世
10	楠目城跡（山田城跡）	中世	31	東崎遺跡	弥生～中世
11	楠目遺跡	弥生～近世	32	田村遺跡群	縄文～近世
12	稻荷前遺跡	タ	33	深瀬遺跡	タ
13	原遺跡	タ	34	深瀬城跡	中世
14	原南遺跡	タ	35	大谷古墳	古墳
15	ひびきの遺跡	弥生・古墳	36	笠ヶ峰遺跡	弥生
16	ひびきのサウジ遺跡	弥生～近世	37	曾我遺跡	弥生～中世
17	大塚古墳	古墳	38	下分遠崎遺跡	弥生
18	伏原古墳群	タ	39	十万遺跡	弥生～中世
19	前行古墳群	タ	40	下井遺跡	平安・中世
20	予岳古墳	タ	41	香宗城跡	中世
21	予岳窯跡	タ	42	須留田城跡	タ

表1 周辺の遺跡分布表

第Ⅱ章 調査の方法

調査対象地は「林田シタノヂ遺跡」（高知県市町村遺跡番号NO. 190180）として周知された場所であった。今回の圃場整備事業及び工期の変更は既に不可能で、かつ緊急を要する情勢となっていた。そこで圃場整備計画地をA～D地区に分け、図上に67の試掘トレンチを設定した。その後、現地を確認し、ビニールハウスや農作物に影響のない場所について、46ヶ所の試掘を行った。2m×2mの試掘グリッドはすべて人力で掘り下げ、遺構・遺物の確認、土層堆積状況の略測及び写真撮影を行った。なお、検出した遺構等によってグリッドの拡張を行った。

平成3年度分の発掘調査は新しく設けられる道路・用水路に伴って早急に行う必要に迫られた。こうした状況下で、TR-10の4m×4mの試掘グリッド、TR-9・TR-11の2m×4mの試掘グリッドを更に拡張するかたちで調査を実施し、遺構・遺物については実測及び写真撮影を行った。

平成4年度分の発掘調査は、試掘調査の平成3年度分の結果を踏まえながら、道路・水路・切土部分を中心に調査I区～III区を設定した。I区・II区は全面を調査し、III区はトレンチ調査を行つてその結果で拡張を考えていた。調査手順としてはまず重機によって表土層を剥ぎ、包含層である黒色粘質土層でも、検出される遺物の量によって褐色粘質土層上面まで重機により堆積土を除去した後、人力によって遺構検出及び遺構の掘り下げを行つた。

遺構の実測・遺物の取り上げについては、任意の地点を基準点としてグリッドを設定した。25m×25mの大グリッドと5m×5mの小グリッドの2種がある。大グリッドは、北西隅を基準としてX軸を数字（1～10）、Y軸をアルファベット（A～M）で表記しその交点をグリッド名とした。すなわち、A-7、K-4などという呼称になる。小グリッドは、大グリッドの北西を起点として1から25まで分割した。小グリッドの呼称はB-8-1、H-2-18とする。



図3 林田シタノチ遺跡周辺小字図

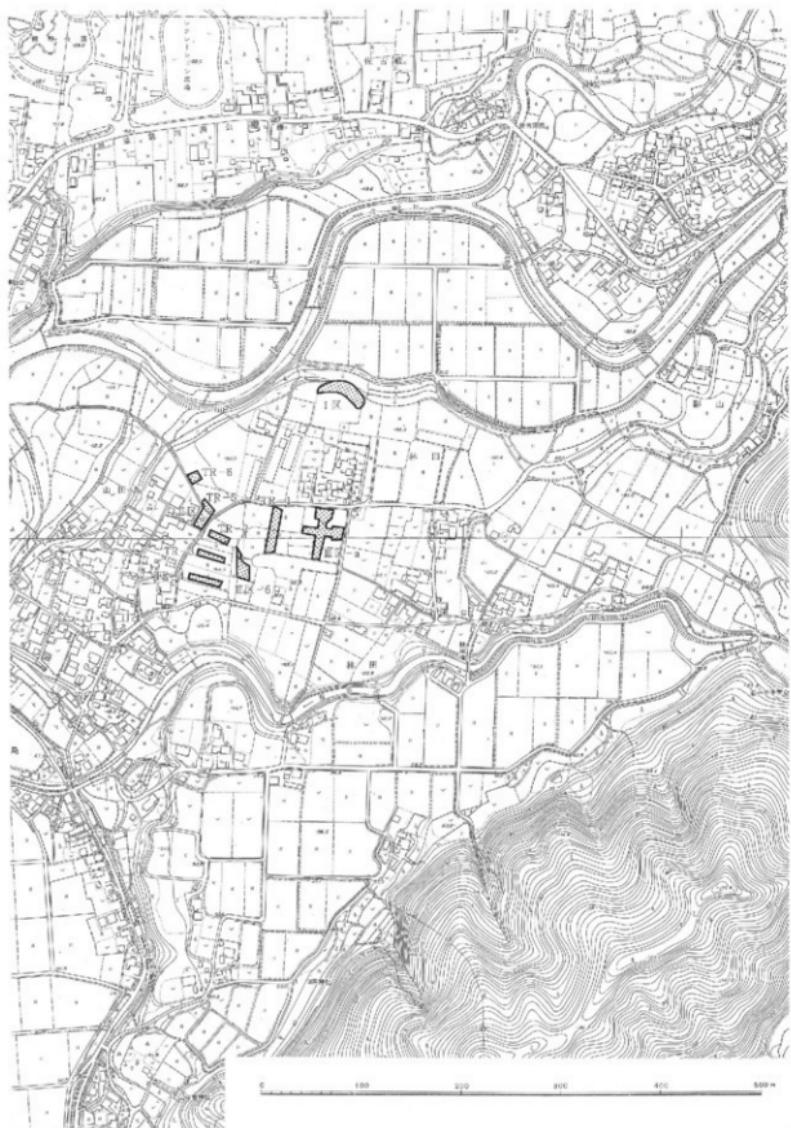


図4 発掘調査区・試掘トレンチ位置図



図5 発掘調査区位置図

第Ⅲ章 遺構と遺物

1. 概要及び基本層序

本調査区の基本層序は以下のとおりである。

I層・耕作土層、II層・黒色粘質土層、III層・褐色粘質土層、IV層・黄褐色粘質土層、V層・灰褐色砂礫土層、VI層・黄褐色粘性砂礫土層、VII層・褐色砂礫土層である。第I層は表土層で現在耕作土層である。層厚は全体的に20~30cmである。第II層は所謂黒ボクと呼ばれている火山灰の土壤化した土層である。第III層は鬼界アカホヤテフラと呼ばれる火山灰土層（音地）である。

2. 遺構

第3調査区a区

柱穴

調査区中央部より2間×3間の掘立柱建物跡が検出されている。柱穴の直径15から20cm、深さ40cm内外を測る。出土遺物は土師質土器の細片が出土している。

第4調査区b区

SD1

調査区東側に南北に走る溝跡が検出された。長さ42m、深さ20から40cmを測る。遺物は古代の土師器の細片、須恵器の細片が出土している。

SK1

調査区南側の東側部分に位置し、直径1.8m、深さ19cmを測る。遺物は土師器の細片が出土している。

SK2

土坑1に隣接した位置にある。台形状のプランを呈し、最大長さ4m、深さ40~50cmを測る。遺物は土師質土器の細片である。

SX1

円形のプランを呈し、二重の溝が円形で取り巻く。直径5m80cm、遺構内からは須恵器、土師器、弥生土器の細片が出土している。

3. 遺物

本調査区からは遺構に伴う遺物で図示できる物は無く、2層の遺物包含層より須恵器、弥生土器、繩文土器の破片が出土している。

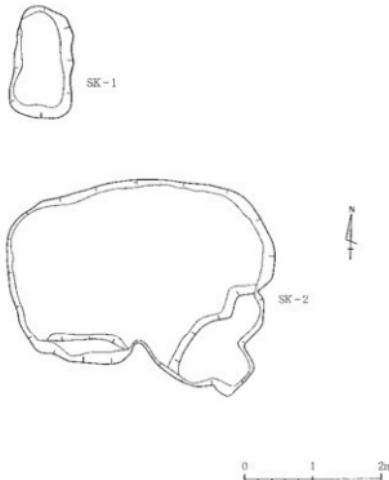


図6 SK1・2実測図

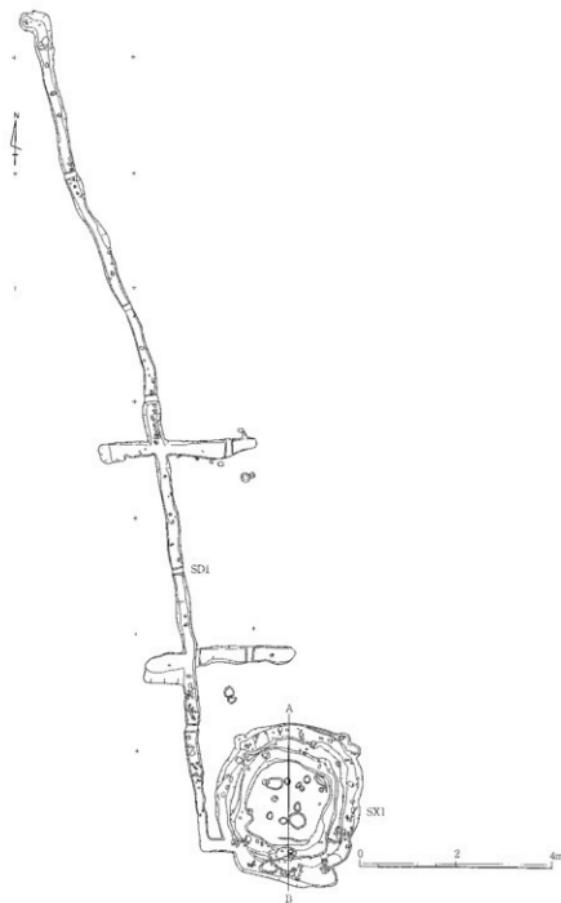


図7 SX1, SD1 実測図



図8 SX 1 バンクセクション図

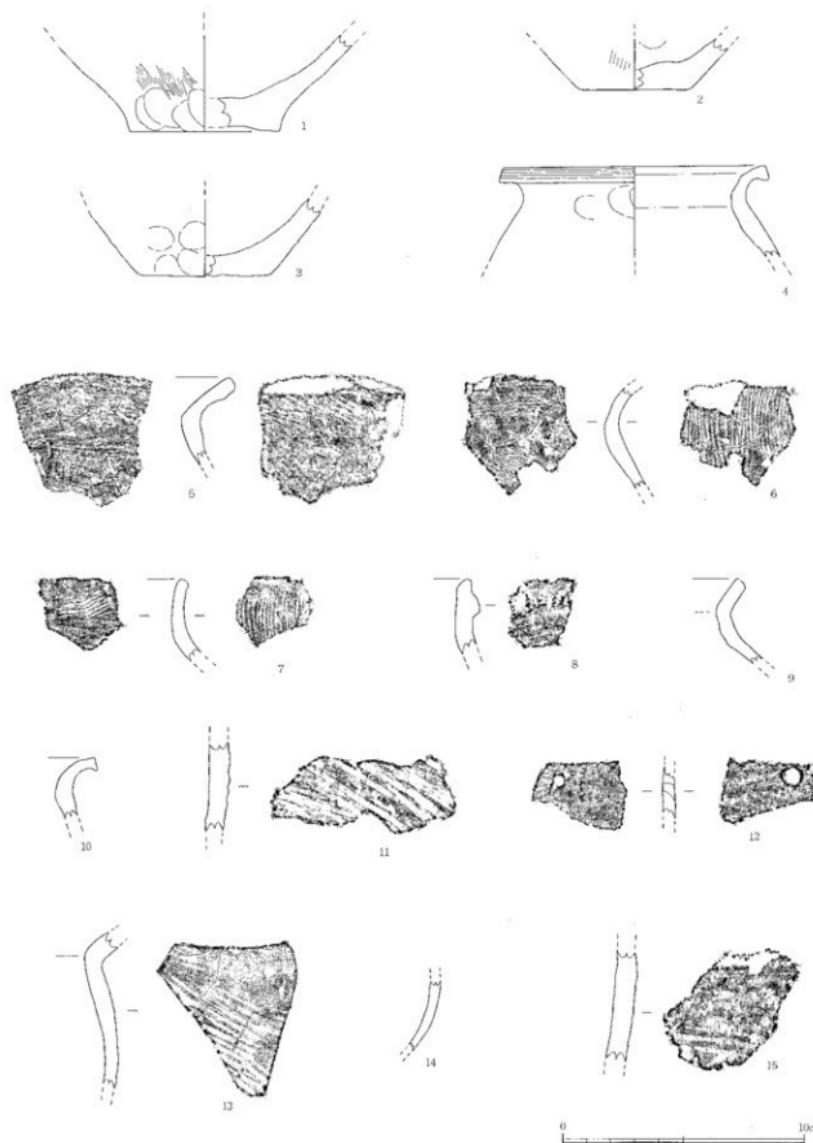


图9 出土遗物类测图



図10 出土遺物実測図

実測 No.	図 No.	写真 No.	出土場所 遺構・層位	種類 目	器種	法量(cm) H径 幅員 底厚	断土	塗成	色調	特徴 成形/装飾/その他
1	3	B区 2層	純土器	灰陶		6.3	石尖の砂粒を含む	灰	内面 外側 底面	10Y R 7/4C: 黄褐色 5Y R 5/3C: 黄褐色 5Y R 7/4C: 黄褐色
2	2	B区 2層	純土器	灰陶		4.4	石尖の砂粒を含む	灰	内面 外側 底面	10Y R 7/4C: 黄褐色 2.3Y R 6/3C: 黄褐色 2.3Y R 7/4C: 黄褐色
3	1	B区 2層	陶土器	漆器		5.4	砂粒を含む	灰	内面 外側 底面	2.3Y R 5/2C: 黄褐色 5Y R 5/3C: 黄褐色 7.5Y R 7/4C: 黄褐色
4	7	B区 2層	陶土器	口縁部		11.0	焼締された粘土	灰	内面 外側 底面	10Y R 6/4C: 黄褐色 2.3Y R 6/3C: 黄褐色 5Y R 6/2C: 黄褐色
5	4	B区 2層	純土器	口縁部			焼締された粘土	灰	内面 外側 底面	10Y R 5/3C: 黄褐色 2.3Y R 6/3C: 黄褐色 5Y R 6/2C: 黄褐色
6	8	B区 2層	陶土器 (漆器)	口縁部			焼締された粘土	灰	内面 外側 底面	10Y R 5/3C: 黄褐色 2.3Y R 6/3C: 黄褐色 5Y R 6/2C: 黄褐色
7	9	B区 2層	陶土器	口縁部			砂粒を少し含む	灰	内面 外側 底面	10Y R 7/4C: 黄褐色 2.3Y R 6/3C: 黄褐色 5Y R 6/2C: 黄褐色
8	5	B区 2層	陶土器	口縁部			砂粒を含む	灰	内面 外側 底面	10Y R 6/4C: 黄褐色 2.3Y R 6/3C: 黄褐色 5Y R 6/2C: 黄褐色
9	6	B区 2層	陶土器	口縁部			砂粒を含む	灰	内面 外側 底面	10Y R 5/3C: 黄褐色 2.3Y R 6/3C: 黄褐色 5Y R 6/2C: 黄褐色
10	10	B区 2層	陶土器	口縁部			砂粒を含む	灰	内面 外側 底面	2.3Y R 6/3C: 黄褐色 5Y R 6/2C: 黄褐色 10Y R 4/3C: 黄褐色
11	17	B区 2層	純土器	腹部			石尖の砂粒を含む	灰	内面 外側 底面	2.3Y R 7/3C: 黄褐色 7.5Y R 6/6C: 黄褐色 10Y R 4/3C: 黄褐色
12	12	B区 2層	陶文土器	腹部			石尖の砂粒を含む	灰	内面 外側 底面	2.3Y R 6/3C: 黄褐色 10Y R 6/4C: 黄褐色 2.3Y R 7/3C: 黄褐色
13	19	B区 2層	須恵器	腹部 縁部			焼締された粘土	灰	内面 外側 底面	10Y R 5/4C: 黄褐色 2.3Y R 6/3C: 黄褐色 10Y R 6/2C: 黄褐色
14	18	B区 2層	陶器	腹部			焼締された粘土	灰	内面 外側 底面	2.3Y R 5/2C: 黄褐色 7.5Y R 5/3C: 黄褐色 10Y R 6/4C: 黄褐色
15	13	B区 2層	純土器	腹部			石尖の砂粒を含む	灰	内面 外側 底面	10Y R 7/4C: 黄褐色 2.3Y R 6/3C: 黄褐色 10Y R 6/2C: 黄褐色
16	14	B区 2層	陶文土器	腹部			石尖の砂粒を含む	灰	内面 外側 底面	2.3Y R 6/3C: 黄褐色 10Y R 6/4C: 黄褐色 2.3Y R 7/3C: 黄褐色
17	11	B区 2層	純土器	腹部			石尖の砂粒を含む	灰	内面 外側 底面	10Y R 4/3C: 黄褐色 2.3Y R 6/3C: 黄褐色 10Y R 6/2C: 黄褐色
18	16	B区 2層	純土器	腹部			石尖の砂粒を含む	灰	内面 外側 底面	10Y R 6/4C: 黄褐色 2.3Y R 6/3C: 黄褐色 10Y R 6/2C: 黄褐色
19	15	B区 2層	純土器	腹部			石尖の砂粒を含む	灰	内面 外側 底面	10Y R 5/3C: 黄褐色 2.3Y R 6/3C: 黄褐色

表2 遺物観察表

第IV章 総括

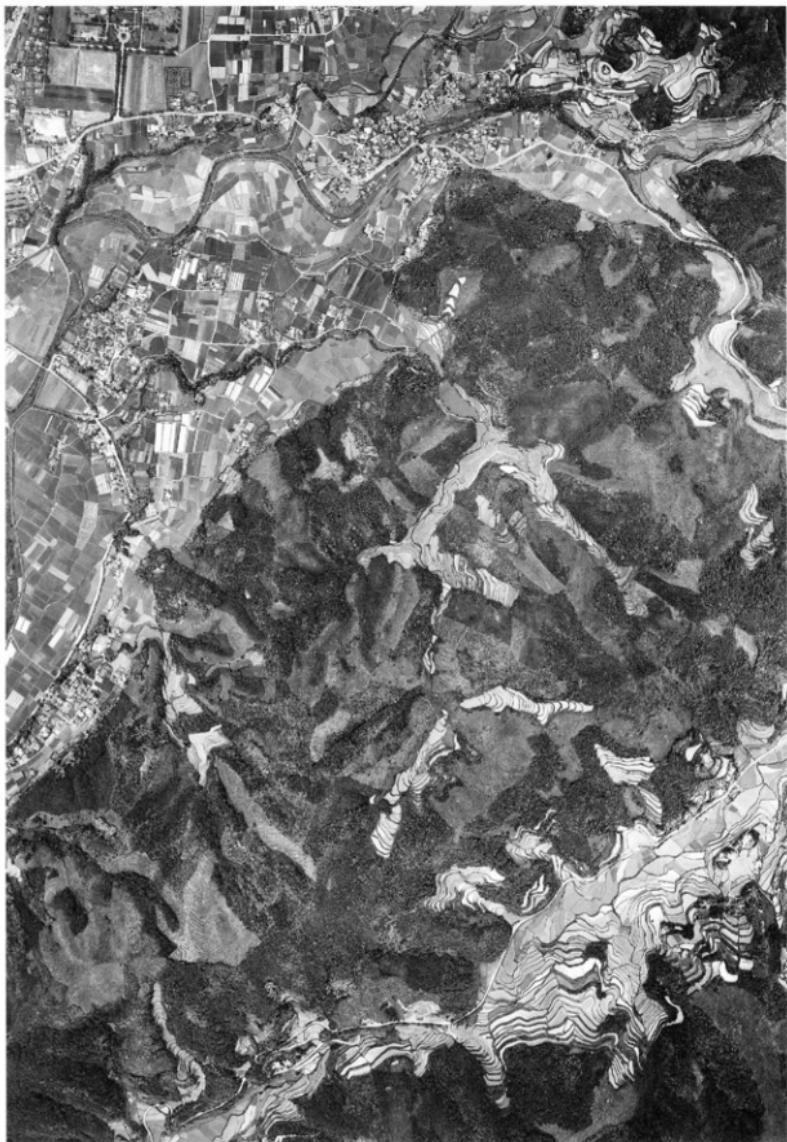
本遺跡出土遺物は全体的に少ないものの縄文時代の遺物としては重要な資料が「林田シタノヂ遺跡II」において詳細に報告されている。

高知県下における縄文時代の遺跡は西高東低の分布を呈している。全体の7割が西部の四万十川流域や海岸段丘上に所在している。その反面、県中央域より東部にかけては縄文遺跡の分布は少なく、今回の調査において確認された林田シタノヂ遺跡の縄文土器資料は高知県中央部の物部川流域における数少ない縄文時代後期の遺跡として美良布遺跡につぐ事例として物部川流域の縄文時代の様相を考える上で参考となった。

林田シタノヂ遺跡で確認された遺構、遺物では縄文時代後期から晩期にかけての土坑と遺物がメインである。弥生時代から中世に至る遺構は少なからず存在するものの乏しく、本地区が近世において郷土を中心とした溜池築造・開墾により開拓されたことを考えれば、納得できる。

縄文遺跡も台地の端部に所在し、台地中央部では水の確保が難しく、集落を成すほどの状況ではなかったと考えられる。北側の台地に所在する林田遺跡（弥生時代後期の集落跡）との比較研究が必要であろう。

写 真 図 版



林田シタヌヂ遺跡



TR-5 調査風景



TR-5 調査



TR-5 調査



TR-5 調査



TR-5 調査



TR-5 調査



TR-6 調査



TR-6 調査



TR-6 調査



TR-6 調査



遺物出土狀況



遺物出土狀況



遺物出土狀況



試掘確認調査 TR3



試掘確認調査 TR3



試掘確認調査 TR21



調査前



調査前



調査風景



第3調査区-a 溝査区



第3調査区-a 調査区



柱穴検査状況



柱穴完掘状況



柱穴完掘状況



第3調査区-b調査区 遺構完掘状況



SX-1 遺構完掘状況



SX1



SX-1とSD-1



SK1



SK1



SK2



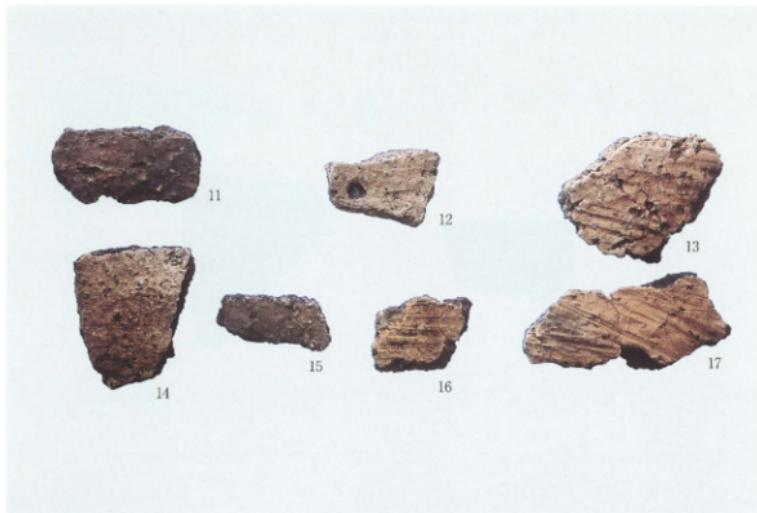
SK2



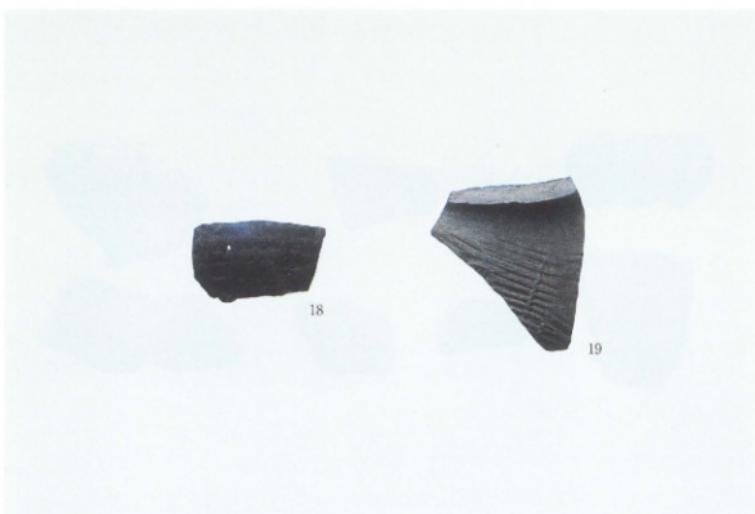
出土遗物（苏生土器）



出土遺物（弦纹土器）



出土遺物（繩文土器）



出土遺物（陶磁器・埴輪器）

報告書抄録

ふりがな 書名	はやしたしたのちいせき 林田シタノヂ遺跡					
副書名	農業基盤総合整備事業に伴う発掘調査報告書					
卷次	I・III					
シリーズ名	土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書					
シリーズ番号	第13、16集					
編著者名	中山泰弘					
編集機関	土佐山田町教育委員会					
所在地	〒782-0017	高知県香美郡土佐山田町岩積365-1				
発行年月日	平成16年3月26日					
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 ° ° ° °	調査期間 mm	調査面積 m ²
はやした 林田 したのぢ シタノヂ いせき 遺跡	こうちけん 高知県 かみぐん 香美郡 ときやまとちょう 土佐山田町 はやした 林田 あさしたのぢ 字シタノヂ	393231	190180	33° 37' 22" 133° 40' 20"	平成4年 3月2日~ 3月24日、 9月17日~ 11月9日	林田・小田島 団体園場整備 事業に伴う 発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
林田シタノヂ 遺跡	集落	縄文 → 近世	柱穴、溝跡、 土坑	縄文土器、 弥生土器、 須恵器、 土師器、 土師質土器、 青磁、 備前焼		

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第13、16集

林田シタノヂ遺跡 I・III

農村基盤総合整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

平成16年3月26日

編集・発行 土佐山田町教育委員会

高知県香美郡土佐山田町岩積365-1

TEL 0887-53-3111(代)

印刷 有限会社西村謄写堂

